

○緑友会福岡県議団 神崎聡

平成27年9月定例会 一般質問（観光立県・街歩きの取り組みについて）

（知事、教育長、企画振興部長、商工部長、環境部長）

皆さん、こんにちは。緑友会福岡県議団の神崎聡です。

2期目、初めての登壇となります。2期目は、1期目の反省を踏まえ、感謝の気持ちを忘れず、謙虚さを心がけた4年間にしたいものだと思っています。

中国の古典に「ただ謙のみ福を受く」という言葉があります。人は謙虚にして初めて幸福を受けることができるという意味であります。日本では、「実るほど 頭を垂れる 稲穂かな」。

緑友会福岡県議団、私は、今、ようやく緑友会の理念がわかってきたような気が致しております。議員として、黄金色の稲穂のような実をつけたいものですが、まだまだ、ほど遠いのが現状です。なぜか、身体だけは、1年中、身がついていますので、まずは、ウォーキングなど、手軽にできる健康づくりで、余分な身を落とすところから始めたいと思います。

さて、今月発行されていましたが、グラフふくおか秋号で、「世界遺産まち歩き」その楽しみ方が掲載されておりました。まさに本県の地方創生を実現するためのヒントがここにあります。そこで本日は、「観光立県、街歩きの取り組みについて」一般質問を致します。

「明治日本の産業遺産革命」が世界遺産に登録されました。「世界遺産」は人類共通の大切な宝を守り、後世に伝えようというものであります。一方で、今年度から文化庁は、地域が主体となって、地域の文化財を積極的に活用して、文化・伝統を語るストーリーを国内外へ戦略的に発信し、地域の振興を図ることを目的とした「日本遺産」を認定しました。つまり、「日本遺産」は、文化遺産そのものの価値ではなく、文化財を通じて、地域の歴史的の魅力や特色をストーリーとして伝えるという物語性を重視しているところであります。

「日本遺産」に認定されると、認定された当該地域の認知度が高まるとともに、今後、日本遺産を通じた様々な取り組みを行うことにより、地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化などにも貢献し、ひいては地方創生に大いに資すると思えます。

平成27年度の「日本遺産」に認定されたストーリーは、本県の大宰府市「古代日本の西の都～東アジアとの交流拠点～」を含め18件です。

文化庁は、日本遺産に関して、文化芸術振興費補助金を交付するなど積極的に支援し、東京オリンピック・パラリンピックが開かれる2020年までに100件程度認定し、海外からの観光客を増やすことにつなげたいとしています。

そこで教育長にお尋ね致します。この「日本遺産」認定に向けて、本県としてどのように取り組もうとされているのか。また、「日本遺産」に認定されることによって、文化庁と協同でどのような事業を推進し、どのような効果が期待できるのか、お尋ね致します。

まちを歩けば世間遺産。世界遺産のような立派なものではないけれど、私たちの町の中にも、後世に残していきたい世間遺産がたくさんあります。

名所、旧跡のようにみんなが行く場所だけに価値があるわけではありません。どんな町にも人々の「暮らし」があり、そこから生まれた「遺産」がたくさんあるはずです。世間遺産で町おこしをする動きも始まっています。

今、歩きながらの地域巡りは、健康づくりやリフレッシュ、あるいは達成感を求めて、地域の新しい旅行の楽しみ方として、関心も高まり、期待されているようです。その一例が「九州オルレ」に見られます。「オルレ」は韓国・済州島から始まったもので、もともとは済州島の方言で「通りから家に通じる狭い路地」という意味であります。自然豊かな済州島で、トレッキングする人が徐々に増え、「オルレ」はトレッキングコースの総称として呼ばれるようになり、今では韓国トレッキングの中心的コースになっています。九州オルレは、済州オルレの姉妹版です。済州島と同じように九州には四季の美しい風景があり、トレッキングに適した山岳を五感で感じ、九州の魅力を再発見できます。

本県には2つの九州オルレコースあります。一つは、唯一船に乗って入る、福岡県内で最大の島に作られたコースであり、天然の自然景観と深い歴史を感じる事が出来る宗像コースであります。

もう一つが、八女コースであります。広大に広がる茶畑の緑は、香り豊かで、なお古代の古墳を丸く包み込んでいる緑は温かさがあります。丘陵地の緩やかな稜線に沿って歩く八女コースは、グリーンオルレとも呼ばれているそうです。

そこで知事にお尋ね致します。このオルレの魅力と成功要因をどのように分析されていますでしょうか。

本県では、国内外から九州、福岡に訪れた観光客を、一人でも多く、この福岡県に滞在、宿泊してもらうための福岡プラスワン戦略を推進しております。このオルレの成功事例や、先程の「日本遺産」を、本県として、観光戦略上、如何に活かしていこうとお考えなのか、お尋ね致します。

次に九州自然歩道についてお尋ね致します。

九州自然歩道は、環境省の長距離自然歩道構想に基づき、東海自然歩道に次いで全国で2番目に整備されました。「やまびこさん」という愛称で親しまれています。各県の自然公園を經由しながら九州を一周するこの歩道は、総延長2936.9kmで、このうち福岡県内のコースは261kmです。県では、多くの県民の方に安全かつ快適に九州自然歩道を利用していただくため、福岡県内のコースマップを作成しています。

九州自然歩道の最大の魅力は、九州7県を循環しているところです。起点・終点は北九州市の皿倉山であります。手軽なハイキングコースから本格的な山岳地帯があり、自由度を心地良く刺激する九州自然歩道では、歩くことでしか見られない素晴らしい景色やドラ

マに出会えるそうです。畑や果樹園、田んぼが続くのどかな里山、潮風が気持ちいい漁村、異国情緒漂う小さな教会、歩くことでしかたどり着けない秘湯など、九州ならではのバラエティーに富んだ魅力も体感できるということです。

そこで知事にお尋ね致します。福岡県内における九州自然遊歩道は、どのように整備されているのでしょうか。施設の整備についてお尋ね致します。また、台風や豪雨などにより、危険になっている個所もあると聞いていますが、災害を受けた場合の対応についてお尋ね致します。

併せて、九州自然歩道も重要な観光資源になりうると考えますが、県では利用促進のため、これまで、どのような取り組みを行ってきたのか、今後、市町村が九州自然歩道を観光資源として活用することも踏まえ、県ではどのような取り組みを行っていくのかお尋ね致します。

次に、大空が屋根のミュージアム「田川まるごと博物館」事業の一環で、昨年取り組まれた、“田川にこんなところが「あったがわ」！”についてお尋ね致します。

英彦山や福智山などの雄大な自然、修験道、神幸祭、上野焼といった特色ある歴史・文化、そして石炭遺産など魅力満載の田川地域であります。昨年は、都市圏のみなさんに体験して頂くため、7つのコースからなる「Tagawa Long Trail あったがわの旅」を設定し、ウォーキング・トレッキングツアーを実施されました。今年も「あったがわの旅2015」、第1弾として、6つのツアー企画を計画されていて、大変素晴らしい取り組みだと評価しているところです。この事業について知事のご所見と、この取り組みを今後どう地方創生へと活かしていこうとお考えなのかお尋ね致します。

最後に、政府は成長戦略で「観光立国」の実現を掲げ、2020年までに、外国人旅行者を年間2000万人に増やすことを目指しています。外国人観光客の増加要因は、円安、東南アジアのビザ・入国制限の緩和、そして地方都市を結ぶLCC・格安航空便の拡大が考えられます。観光庁の調査データによりますと、外国人観光客の目的のトップは、日本食、2位がショッピング、3位が自然・景勝地、4位が街歩きで、続いて、温泉、旅館、酒、歴史・文化となっています。

注目するところが4位の街歩きです。私も、海外に行きますと、街を歩いて人々の暮らしぶりを見るのが、とても刺激的で大好きであります。外国人の観光客にとっても、「街歩き」で、日本人の普通の暮らしをかいま見る、そこが面白いのかもしれない。そこで知事にお尋ね致します。

文化財を通じて地域の歴史的魅力や特色をストーリーとして伝えるという日本遺産にしても、日本食や、のどかな風景、おもてなしなど、昔からある「ありのまま」の自然体の世間遺産は、大きな観光資源になりえると思います。観光立県を目指す本県として、知事はこれから何が課題で、それをどのような手段で解決していこうとお考えなのかお聞かせ

下さい。

ウォーキングやトレッキングによって、地域を再発見し、一つでも多くの魅力ある観光資源の開発につなげて頂きますように要望致しまして質問と致します。ご清聴ありがとうございました。

○緑友会福岡県議団 一般質問（再質問） 三十一番 神崎 聡

「地域のありのままの特色を活かした、外国人観光客の誘客について」、知事から、一人でも多くの外国人観光客が、本県を訪れるように、しっかり取り組んでいくとご答弁を頂きました。

私は、県内それぞれの地域が、外国人観光客を取り組もうとする時の、最初の課題は、宣伝・広報活動なんだと思います。地方にはこんなに素晴らしい場所と人情があるという、最初の一步の宣伝活動に、県として是非、力を注いで頂きたいと思います。そして、観光リピーターを開拓して、理解者を増やしていくことです。そのためには、サービス向上が重要です。特に日本語のできない外国人の立場にたってあげることが大切だと思います。先程知事をご答弁されましたが、観光ボランティアなどのソフト面での研修の充実に加え、異国の地で安心して情報を得られるようにw i f i 環境や多言語案内表示など、ハード面の整備は不可欠だと私は思います。最後にこの点につきまして指摘させていただきます。

教育長に、要望を一つさせて頂きます。

市町村の意向を踏まえて新たな「日本遺産」の認定に向けて積極的に取り組むとのご答弁でしたが、「日本遺産」には、単一の市町村でストーリーが完結する「地域型」と複数の市町村にまたがってストーリーを展開する「シリアル型（ネットワーク型）」の2種類あると聞いています。例えば、平安時代中期、日本古来の山岳信仰と外来の仏教、道教などが習合して修験道という日本独特の宗教が成立した修験道文化があります。これは、豊前市求菩提山、添田町英彦山にまたがっての取り組みになりますから、プロジェクトを推進した場合、県の調整と役割が非常に重要になってきます。是非、複数の市町村にまたがる「シリアル型」日本遺産への認定に積極的に取り組んで頂き、15圏域をまたがる地方創生に貢献して頂きますように要望致しまして、質問を終わります。ありがとうございました。